

一般社団法人 **日本建設機械工業会**
JAPAN CONSTRUCTION EQUIPMENT MANUFACTURERS ASSOCIATION (CEMA)

日本建設機械工業会とは

About CEMA

日本の建設機械産業の健全な発展を図り、日本経済の発展と国民生活の向上に貢献することを目的としています。

主要事業

経営高度化委員会

経営の高度化

運営委員会

円滑な事業運営

国際委員会

グローバル展開の支援

技術製造委員会

環境、安全、その他技術的課題への対応

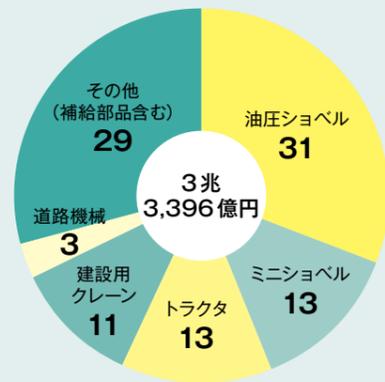
流通サービス委員会

健全な流通・サービス基盤の整備

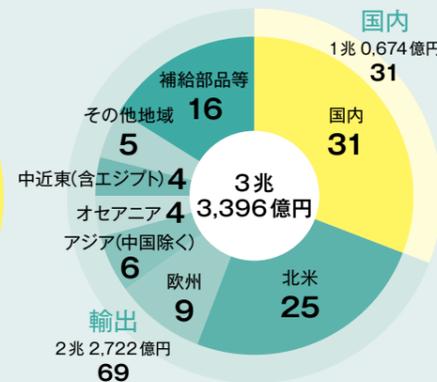
イノベーション委員会

産業の高度化

2024年度
機種別出荷金額構成比 (単位%)



2024年度
国内・輸出構成比 (単位%)



建設機械本体出荷金額 【出典：建機工自主統計】

詳しくは

日本建設機械工業会



暮らしをささえる建設機械

How construction equipment supports our way of life

除雪

ホイールローダ、モータグレーダ

畜産

ホイールローダ、ミニショベル

建設資材

ブルドーザ、ホイールローダ、アスファルトプラント、コンクリートプラント、オフロードダンプトラックキャリア、自走式粉砕機、クローラドリル

リサイクル

マグネット仕様油圧ショベル、グラップル仕様油圧ショベル、自走式粉砕機、自走式スクリーン

林業

林業仕様油圧ショベル、トラック搭載型クレーン、キャリア、自走式木材粉砕機

建築・解体工事

油圧ショベル、解体仕様油圧ショベル、クローラクレーン、油圧クレーン、タワークレーン、高所作業車、トラック搭載型クレーン、コンクリートパイプレータ、基礎機械

港湾・荷役

マグネット仕様油圧ショベル、グラップル仕様油圧ショベル、クローラクレーン

護岸・河川・橋梁工事

油圧ショベル、クローラクレーン、油圧クレーン、基礎機械、キャリア

造成・環境工事

ICTブルドーザ、ICT油圧ショベル、油圧ショベル、フローティングクレーン、基礎機械、締固機械

道路工事

締固機械、アスファルトフィニッシャー、モータグレータ、路面切削機、コンプレッサ

生活関連工事

油圧ショベル、油圧クレーン、高所作業車、トラック搭載型クレーン、コンクリートポンプ

トンネル・上下水道

シールド、小口径管推進機械、ドリルジャンボ、クローラテレスコ

建設機械の歴史と変遷

History of Construction equipment



国産初
電気ショベル
神戸製鋼所(現・コベルコ建機)
50K 電気ショベル(1930)



日本の
ブルドーザの元祖
小松製作所(コマツ)
G40 ブルドーザ(1943)
1942(昭和17)年12月、飛行場建設に使用する目的で、海軍から生産要請。



国産
ラフテレーンクレーンの先駆け
多田野鉄工所(現・タダノ)
TR-150 ラフテレーンクレーン(1970)
運転席で道路走行とクレーン作業の二つの操作が可能。四輪駆動で悪路にも強くコンパクトでもあるため、狭い不整地の現場にも対応。



世界初 ミニ機
神戸製鋼所(現・コベルコ建機)
RK70M/RK70 ミニラフテレーンクレーン(1989)



環境創造型
建設機械の
先駆け
コマツ
BR60 自走式破砕機(1992)
コンクリート塊などのガラクを、その場で細かく破砕、路盤材や建築物の基礎材に再利用にと開発。



国産初
オールテレーン
クレーン
タダノ
AR-5500 オールテレーンクレーン(1998)
国内最大 550t 吊りオールテレーンクレーン。

日本における 建設機械製造あけぼのの時代

第二次世界大戦 前後 ~ 1945
(昭和 20年)

1945
(昭和 20年)
~ 1949
(昭和 24年)

建設機械産業の 再出発



小松製作所(コマツ)
D50A ブルドーザ(1947)
55馬力、重量8t。戦時中に試作したトロー車をベースに開発。故障が多く、その後多くの改良が施される。



日本初
ケーブル式
ドラグライン
日立製作所(現・日立建機)
U05 ショベル(1949)

1950
(昭和 25年)
~ 1959
(昭和 34年)

本格的な機械化 施工がスタート



国産第1号
機械式クローラークレーン
石川島コーリング(現・加藤製作所)
330 スプローラークローラークレーン(1952)
石川島重工業が米国・コーリング社と技術提携、設立した石川島コーリングが製造した機械式クレーン。



日本初
トラッククレーン
神戸製鋼所(現・コベルコ建機)
10KT トラッククレーン(1953)
10KT(6t)とともに20KT(10t)を完成させ、警察予備隊へ納入。

1960
(昭和 35年)
~ 1965
(昭和 40年)

高度成長期の 日本をけん引



ショベルの代名詞
商品名「ユンボ」
新三菱重工業(現・キャタピラー)
ユンボ Y35 油圧ショベル(1961)
フランス・シカム社と技術提携した新三菱重工業が国産化。現在でもショベルを「ユンボ」と呼ぶ人が多い。



国内初 純国産
油圧ショベル
日立建機
UH03 油圧ショベル(1965)
バケット容量0.3m³、重量8.3t。ユーザから高い評価を得、世界各地で活躍する「日立 UH 油圧ショベル」の土台となる。

1975
(昭和 50年)
~ 1988
(昭和 63年)

高度成長から、 安定成長へ転換



古河鉱業(現・古河ロックドリル)
HCR200 クローラードリル(1977)
油圧式クローラードリルの国産第1号。1983(昭和58)年ごろから本格的な全油圧式ドリルの時代へ突入。



オカダアイオン PCP-S001
自走式クラッシャー(1987)
解体現場用自走式のクラッシャーとしては国内初。



日立建機
ZW シリーズホイールローダ(2006)
TCM と共同開発。走行性能の大幅向上をはじめ、操作性・作業性に優れたオフロード法に対応した次世代のモデルとなりました。



建設機械として
省エネ大賞初受賞
新キャタピラー三菱(現・キャタピラー)
CAT793C ダンプトラック(2002)
積載重量218t、重量147.4t、定格出力1615kWの国内最大の超大型ダンプトラック。石灰石鉱山で稼働。



住友建機 SH250-6MH
マテリアルハンドリング機(2014)

2020 時点の展望

建設機械の「新世代化」が進行

CEMA のあゆみ

History of CEMA

年号	話題
1990(平成2)	4月 (社)日本産業機械工業会から分離独立、任意団体として日本建設機械工業会(建機工)を設立 6月 通商産業省(現・経済産業省)より(社)日本建設機械工業会の設立認可
1991(平成3)	3月 「独禁法マニュアル」を作成
1992(平成4)	3月 「建機工の活動と独禁法」を作成 出荷金額統計を作成 需要予測を作成
1995(平成7)	1月 阪神・淡路大震災発生・災害復旧支援窓口を設置 7月 製造物責任(PL)保険制度を創設
1997(平成9)	8月 ウェブサイト「CEMA WORLD」を開設 9月 「建設機械の統一安全基準と警告表示に関するガイドライン」を制定
1998(平成10)	11月 「地球環境保全のための自主行動計画」を策定
1999(平成11)	6月 「移動式クレーン定期自主検査者制度」を創設
2000(平成12)	5月 建機工設立10周年
2002(平成14)	4月 ウェブサイトを改訂し、会員専用ページを設置 11月 「コンクリートポンプ車整備証明制度」を創設
2003(平成15)	3月 「不当表示状況にある建機の是正に関する指針」を策定 「建設機械の盗難防止装置に関するガイドライン」を制定
2006(平成18)	3月 「我が国建設機械産業の将来展望調査研究報告書(2005ビジョン)」を作成
2008(平成20)	3月 「地球環境保全のための自主行動計画」を改訂
2010(平成22)	5月 建機工設立20周年 「日本建設機械工業会20年のあゆみ」を発刊
2011(平成23)	3月 東日本大震災発生、震災相談窓口を設置 9月 内閣府より一般社団法人の移行認可
2013(平成25)	12月 「建設業界の独禁法Q&A集」を作成
2014(平成26)	4月 調査部を開設
2017(平成29)	3月 「協力企業との適正取引の推進に向けた行動計画」を策定
2019(令和元年)	12月 サービスマンリクルート用動画を公開
2020(令和2)	5月 建機工設立30周年 「日本建設機械工業会30年のあゆみ」を発刊
2021(令和3)	7月 CN 実現に向けた要望とりまとめを提出 同書は適宜内容を見直しの上、22年以降も毎年提出
2022(令和4)	11月 ウェブサイトを全面改訂し、公開
2023(令和5)	12月 「建設機械業界における物流対策自主行動計画」の策定
2024(令和6)	3月 現住所へ移転
2025(令和7)	5月 「建設機械の日(11月19日)」を制定し、公表

※ CN : カーボンニュートラル

社会に役立つ建設機械

Construction equipment helping society

建造物を傷つけない 機動性の高さ

クボタ

歴史的な建築物を守りながら、生活しやすい都市づくりを実現

欧州で約30年にわたり活躍するクボタの小型建機が、歴史的な建築物が多いフランス・パリ市で力を発揮、小回りが利き、狭い路地でも建造物を傷つけない機動性の高さで現場の支持を集めています。また、景観・建造物の保全に加え、欧州における厳しい排ガス規制やパリ市のディーゼル車両乗り入れ禁止（2024年より）の動向を踏まえ、電動化に向けての取り組みを始めるなど、現地の社会情勢を考慮した製品の供給を行っています。



International Contributions



国際貢献

現地による悪路の改善を 後押し

酒井重工業

スタビライザー工法の技術移転

現地の人々が自分達で悪路を改善できるようにスタビライザー(PM550)工法の技術移転を目指しています。ニカラグアではスタビライザーを3台使用し、技術移転後は自分たちで2,000kmの道路を5年間で改善しました。酒井重工業の社是に「国土開発という社会事業に貢献する」という一文があります。我々は道路づくりという国土開発を通じ、未来への発展に繋がる活動を今後も続けていきます。



世界で活躍するPM550



現地の方と共に作業で雇用を創出

極寒の地・南極で 活躍中

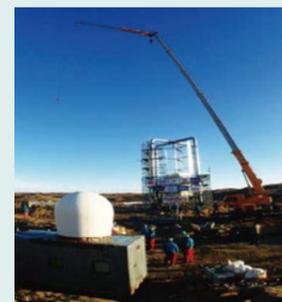
加藤製作所

昭和基地の支援

2015(平成27)年以降、最低気温マイナス45℃という極寒の昭和基地に35t吊りラフテレーンクレーンMR-350Ri、8tクラス油圧ショベルHD308US-6、そしてコンパクトトラックローダCL45を納入。現地観測施設の「昭和基地」に係る新築建替え及び地盤整備、除雪作業並びに物資の運搬等、さまざまな分野で活躍しています。機械の輸送は、南極観測船「しらせ」で輸送します。



「しらせ」でのクレーン輸送の状況



Contributing with technology



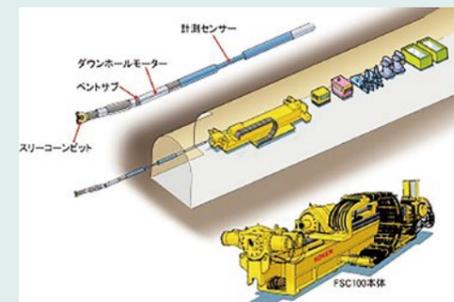
技術で貢献

リニア中央新幹線開発に 貢献

鈺研工業

リニア中央新幹線 トンネル
(コントロールドリリング)

長尺水平調査ボーリング機器の開発を通じて環境破壊を最小限に抑えながら多くの地域の高アクセスを実現するリニア新幹線開発に貢献しています。トンネルを多用するリニア新幹線は山岳の環境を破壊することなく敷設でき、森林減少の歯止めにも効果的です。また、日本国土が高速鉄道で網羅されれば多くの人に新たな雇用、経済活動が生まれ出される可能性が開かれます。



震災・原発事故の 復旧作業を支援

日立建機

高機能な双腕機、
遠隔操作機の提供

東日本大震災発生後、複雑な作業が可能な双腕機「ASTACONEO」を2011年5月6月の2度にわたって被災地に提供。宮城県石巻市でのコンテナ撤去作業や、岩手県南三陸町におけるがれき処理作業を行いました。福島第一原発では、東京電力や専門機関、業界団体との協議・協力のもと、クローラキャリアや大型解体機、大型クレーンなどを無線遠隔操作式に改良して現場に投入。約20台の当社機が発電所敷地内の作業に貢献しています。



南三陸町で稼働する双腕機「ASTACONEO」



がれきを片付ける「ZX120」

Disaster Recovery Support



災害復興支援

震災による墓地、 墓石の復旧支援

前田製作所

早期復旧を願う声に対応

中越沖地震や東日本大震災では、墓石が倒壊する事例が多数発生。ご先祖様を思い、墓地、墓石の早期復旧が望まれるなかで、復興支援機として、前田製作所の通称「かにクレーン」を無償で貸し出し、被災地復興の一翼を担いました。また、地域とのふれあいを目的としたイベントにも出展。子どもたちをはじめ、大勢の人達に、「かにクレーン」の存在、また機械に興味を持ってもらうための活動を展開しています。



墓石の吊り上げ作業の様子

健全な森林育成に 貢献

オカダイイオン

地拵え※の機械化で
森林整備を効率的に

地拵え機「切株グラインダー」は、高速回転の破碎ローターを採用することにより、14本の破碎刃で切り株・伐倒木・枝葉を短時間で切削することが可能。また、グラップル装備で枝条や雑草などをスムーズに除去し、レーキ機能で地表面をかいいて林地を整理、植林場所を確保することができます。今後もお客様のニーズに寄り添うだけでなく、環境を意識した製品のご提供に努めます。

※地拵えとは、植栽する前に植え付け場所に残った材や枝などを整理し片付ける作業



根株の切削



破碎ローター

Environmental measures



環境対策

森づくりに 貢献

コベルコ建機

林業機械での
カーボン・オフセット

コベルコ建機は、2013(平成25)年10月1日より、地球温暖化防止や森林整備への更なる貢献のため、カーボン・オフセット制度を活用した独自のプログラム、コベルコ「カーボン・オフセット」プログラムを実施。地道な活動が評価され、2015(平成27)年に「第5回カーボン・オフセット大賞」農林水産大臣賞を受賞しました。



林業機械 SK75SR

環境調和に向けた取り組み

Initiative for environmental harmony

カーボンニュートラル社会の実現への取り組み

建設機械が排出するCO2の削減見込み

2030年までに **160万 t-co2**

建設機械業界は、建設機械の燃費改善やハイブリッド式を含めた省エネ型建設機械の開発と実用化により、CO2の排出削減に取り組んでいます。今後は効率的な建設機械の利用なども含め、政府や建設施工事業者と一体となって取り組みを進めていきます。

建設機械製造における省エネルギーの実現

2013年比で既に **30%削減**

建設機械自体の省エネに加え、生産設備や建屋等の更新時においても、不断の省エネ活動に取り組んでいます。建設機械業界は、目標年度である2030年に向けて、更なる削減に取り組めます。

建設機械のリサイクルへの取り組み

リサイクル可能率

97%以上

建設機械は自動車・家電製品に比べて、リサイクル困難な樹脂部品等の使用割合が少なく、リサイクル可能率(技術的にリサイクル可能な割合・重量比)は現状でも高い値です。

環境創造型建設機械

自走式破碎機開発

近年、建設工事にともなって発生するコンクリートやアスファルトなどの建設廃材を工事現場で破碎して路盤材や骨材として再生する自走式破碎機が開発され、普及してきています。



コマツ BR380JG-3 ガラバコス

未来世代へのPR

Promotions to Future Generations

「こども・夢・未来フェスティバル」への参加

アイチコーポレーション

主催：認定特定非営利活動法人 彩の子ネットワーク

2003年より、地域の子どもたちを対象とした高所作業車の試乗体験会を実施。子どもたちにとって、日常生活では接する機会の少ない「働く自動車」への試乗体験をきっかけに、将来、働くことに対する興味づけ・意識づけに寄与しています。



行列ができるほどの人気ぶり!

STEM “リケジョ”を応援&増やす活動

キャタピラー

(Science Technology Engineering Mathematics)

世界を元気にする地域の女性エンジニアの育成・支援、受賞者に奨励金を贈る「キャタピラー STEM 賞」を2018年に創設。企業や大学の第一線で活躍する若手研究者中心の一般部門に加え、2019年より次世代育成のために学生部門を新設しました。2020年からはプログラミング体験を実施しています。



“エンジニアになりたい!” 子集まれ~!

教科書に載っていない体験を

コマツ

2011年5月に発祥の地である石川県小松市の工場跡地に、地域社会と一緒に子どもたちを育てる場所として、「こまつの杜」をオープン。OB・OG ボランティアが主体となり、理科教室や出張教室を開催。教科書には載っていない建設機械の構造などをテーマに、理科やものづくりを好きになってもらう取り組みを行っています。



こまつの杜

レゴ® ブロック教室

住友建機

「青少年の育成」を目的に定期的に開催。世界に23人しかいないレゴ® 認定プロビルダーの三井淳平さんを講師に招き、子どもたちに“モノづくり”の楽しさを学び、創造力を育む機会を提供しています。



“モノづくり”の楽しさ、体感中!

未来に向かって働く人々の声

もっと見たい! 方はコチラ▶



世界で暮らす人々を支える、その一員となる

住友重機械建機クレーン株式会社
O・H様 2015年入社



調達部でのバイヤーを経て、海外サービス部では、代理店からの問い合わせ対応やサービス部品の販売促進を担当しています。中東エリアの戦略強化のため、現地パートナー会社に半年間の長期海外出張も経験。海外代理店の担当者として英語で意思疎通がとれ、交渉がうまくいった時は素直に嬉しいです。モノだけでなく人も評判になるブランドへと成長し、「世界のお客様に最高の満足を」届けることができると信じています。

モノづくりにつながるモノづくり

株式会社タダノ
S・M様 2016年入社



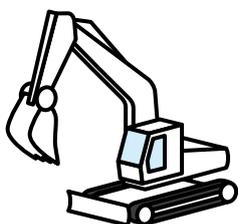
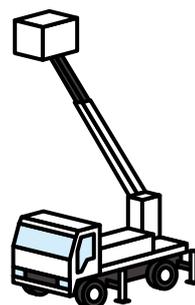
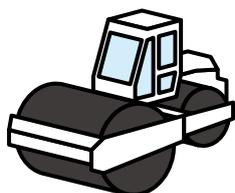
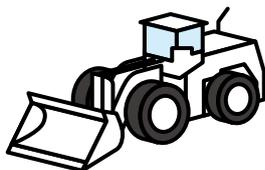
移動式クレーンの油圧回路設計に携わっています。回路の設計・機器選定から、工場での製造の立ち会い、実際に自分でクレーンを動かす、など実機に触れることも多々あります。油圧回路はクレーン全体の操作・動作を決める重要な部分であるため、設計の責任は重大ですが、それが一番のやりがいです。「この機種は私が設計しました」と胸を張って言えるかと自身に問いながら日々の担当業務に取り組んでいます。

他にはない“非日常”を味わえる仕事

マルマテクニカ株式会社
T・R様 2020年入社



アメリカ製の木材破碎機やトレンチャー(溝掘機)の整備作業に携わっています。修理や点検のほか、新車整備として部品の取り付け、運転や操作もあります。作業は現地作業も多く、日本全国、先輩社員と一緒に出張しています。整備を担当するようになってから日が浅い機械は、不具合を見定めるポイントがすぐに見つけられず、苦勞することもあります。全てを乗り越えて作業をやり切った時には、大きな達成感を得られます。



一般社団法人 **日本建設機械工業会**
〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-20 神谷町MTビル10階
TEL : (03)5405-2288 FAX : (03)5405-2280
URL <https://www.cema.or.jp>

2026年1月現在